

アメリカの小学校に見る品性徳目教育とその運用

青木 多寿子 (岡山大学教育学部)

本稿は、アメリカで近年取り組み始めた品性徳目教育について、著者の子どもたちをアメリカの小学校に通わせた体験、あるアメリカの小学校で実際に用いられている校内研修用資料、一般書店で販売されている教師用手引きをもとに、品性徳目教育の内容と実際の学校での運用を具体的に紹介するものである。内容的には、アメリカの道德教育の変遷、品性徳目教育と従来の道德教育との比較や学校での実際の運用の仕方、クラス討論の仕方に関する資料を取り上げた。アメリカの学校で行われている品性徳目教育は、学校やクラスごとに定められたものではなく、学校区全体で定められ、幼稚園から高校まで共通となっている。小学校では、毎月一つずつ取り上げて討論し、道德的思考力を高めるだけでなく、実際に行動できる実行力を養うことに力が入れている。係りの仕事の評価、問題行動の更正のためにも品性徳目がベースとなっており、児童の問題行動について保護者とコミュニケーションを取る際にも役立っていた。未来の良き市民と育成することを目標に、親切でより温かみのある、責任感ある地域社会をつくるため、地域と学校が品性徳目を要として連携し、子どもを育てようとする姿が窺えた。

キーワード：品性徳目，道德教育，クラス討論，学校行事，生徒指導

1. はじめに

平成10年8月から平成11年11月末まで、二人の子どもたちをアメリカの公立小学校に通わせた。子どもたちを学校に通学させる前、私はアメリカの学校教育には全く期待していなかった。それは大学時代、比較教育のゼミで読んだ本に原因があった。その本には、教育に悩むアメリカの姿が書かれていたのである。しかし実際に、子どもたちが学校に通い始めると、私の考えは一変した。調べてみると、アメリカはその後、国を挙げての教育改革に取り組み、その成果が現れ始めていたのである。子どもたちが通ったトマホークリッジ小学校は、Boyer(1995)のベーシックスクール¹の考えを取り入れた学校で、品性徳目教育に力を入れ、地域との連携して子どもたちを健全に育てようと努力していた(青木, 1999)。

アメリカの学校教育に感心した点が多い。その中でも特に感心したものの1つが、学校での教育目標の明確さと品性徳目教育であった。日本では、学校ごと、クラスごとに目標と守るルールが異なっている。しかし、私が住んだカンザス州、ブルーバレー学区²では、品性徳目を教育委員会が学校区に共通で定めていた。つまり、小学校、中学校、高校を通して、学ぶ道德価値基準が統一されているのである。個性を尊重し、社会に貢献できる市民を育成するという教育目標の下で、個々の学校を越え、学校区全体で統一した道德規準である品性徳目を定める。そしてトマホークリッジ小学校では、それらを中心に年間行事に組み込み、各教科と関連づけ、教科の枠を越えて日常的に品性徳目が身に付くように工夫していた。

そこで本稿は、子どもたちが通ったトマホークリッジ小学校で使われていた実際の資料、校長先生から頂いたこの小学校でのBasic schoolに関する校内研修用資料、一般書店で売られている教師用の品性徳目教育ガイドブックを参考に、アメリカの小学校に見る品性徳目教育とその運用を解説する。

¹ Boyerはアメリカで教育改革に取り組んだ研究者である。Boyer(1995)は、効果的な教育のためには「connection(結びつき、関係性)」ということばで表現できる4つの「C」が必要だとしている。それは、①コミュニティ(community)を形成するような人と人の結びつき、②学校の各要素を結びつける一貫した(coherence)カリキュラム、③学習する気になる学風(climate)、④生涯教育と結びつくような品性(character)を身につけること、である。こうして、この小学校では品性徳目が学校のカリキュラムと一貫性を持ち、コミュニティを結びつけるものとして機能していたのである。

² この学区の様相、学力、人種構成、教育理念などに関しては、青木(1999)、佐藤(2001a, 2001b)に紹介されている。

II. アメリカでの道徳教育の変遷

では、品性徳目教育はどのような経緯で生まれたのであろうか。この点について、Lickona(1993)は、現在までのアメリカの道徳教育の変遷について次のようにまとめている。

本来、品性徳目はキリスト教の影響を受けたもので、①子どもたちを賢い良い子にし、②子どもたちが良くなることを助ける働きがある。これはアメリカの学校が始まって以来、学校に存在した徳目であった。しかし、20世紀に入り、品性徳目は衰退した。進化論、論理実証主義が主流になると、道徳性は個人化され、「個人的な価値判断」と考えられるようになった。つまり、学校を通して公共的に論じたり伝えたりするものではなくなったのである。

しかし、1990年代になって、品性徳目教育に新しい動きが見られるようになった。子どもたちの問題行動を減らし、学力を付けさせ、責任感ある市民を育成するために、品性徳目は必要なものであると考えられ始め、これを地域とのパートナーシップで形成しようとする動きが生まれてきたのである。このような動きが生まれたのには、次の3つの背景があると言う。まず、①家庭における道徳性の教育力が低下したこと。離婚の増加、ひとり親家族の増加、貧困層の問題など、家庭の教育力が低下したため、学校での道徳教育の必要性が生まれた。家庭で道徳性を育成しにくい事実を受け入れたとき、再構築するには学校が中核にならざるを得なくなった。次に②メディア、増加した低道徳グループの影響を受けて、本来ならば健全に育つ若者の道徳レベルが低下する傾向が見られたことも一因である。さらに③多くの人々が共有する、倫理的、文化的な徳目が必要だと考えられ始めたこともあげられる。これらの背景の中、キリスト教という宗教の枠にとらわれない、世界中、どこでも通用するユニバーサルな徳目を考える必要性が求められるようになった。良い行動とはどのようなものか、良い人になるとは具体的にどのようなことか、よい行動を実際にどのように実行すればよいのか、これらを伝えるのが品性徳目であり、学校は子どもたちが品性徳目を理解するのを助け、品性徳目の実行に関わらせ、子どもたち、若者自身の生活を良い方向に導く援助をしなくてはならないと考えられるようになった。

III. 品性徳目教育の具体的内容と学校行事との関連

トマホークリッジ小学校は、学校区が定めた7つ

の品性徳目に「勇気」という徳目を追加し、8つの品性徳目³を明確に定めていた。校長先生に頂いた校内研修用の資料を見ると、この8つの徳目は、1ヶ月ごとに取り上げられるようになっていた。1年間10ヶ月のうち、1ヶ月に1徳目を取り上げ、最後の月に総まとめをする。取り上げられた品性徳目は、「品性徳目ノート (Fig.1, 2)」にまとめるだけでなく、すべての教科で関連づけを強調し、年間行事とも関連が持てるようになっていた。またブルーバレー学区の児童・生徒は、学区が定めた7つの徳目が記された小さなマジックシートを持っていた。さらに各教室や図書館、廊下には、品性徳目に関するポスターが至る所に掲げられていた。それは一つの徳目について1枚を使った、カラーの美しいポスターで大判の紙面には品性徳目に関わる具体例が多く挙げてあり、子どもたちが実際に実践しやすいように工夫されたポスターであった。

品性徳目に関するポスターは、小学校低学年用と高学年用があり、次のような具体例が豊富に示されている。例えば、respect (尊敬、思いやり) の場合、「尊敬される人とは (思いやりのある人とは)」という出だしで、次のような例が記されている。「自分だったらどう思うかを考えて行動する人」「礼儀正しくて、気配りのできる人」「好きな遊びや考え方が違っていても友達でも仲良くできる人」「見た目や行動、考え方が違っていても誰にでも親切にする人」、「意見の食い違いがあっても、けんかせず平和的な手段で解決する人」。さらにこのポスターには、最後に「あなたはどうやって、思いやりの気持ちを表しましたか」という問いかけまで記されている。ほとんどの品性徳目について、各徳目ごとにこのポスターが用意され、教室の壁に貼られている。品性徳目のことは抽象的で難しいけれども、具体的例文を読めば、子どもたちでも理解できる上、時々学校を訪問する保護者の目にも留まるように配慮されていると感じた。アメリカの学校の教室は、児童が目にする品性徳目を行動に移す具体例が、大変豊富な環境を創りだし、学校を訪問する保護者の目にも留まることで、児童・生徒の道徳性だけでなく、家庭教育の回復を目指しているように思えた。

³ Respect (尊敬)、responsibility (責任感)、perseverance (忍耐強さ)、giving (奉仕)、self-control (自己統制)、honesty (正直さ)、compassion (共感)、courage (勇気) の8つである。教師用マニュアルによると、この中で最も重要とされているのは respect と responsibility である。

Learning about Virtues

with Arthur!



Reprinted with permission by Marc Br

Fig.1.品性徳目ノートの表紙（小2用）

※8つの徳目の他、ページ上部の徳目欄が空欄になったページもあり、柔軟性を備えている。

Honesty

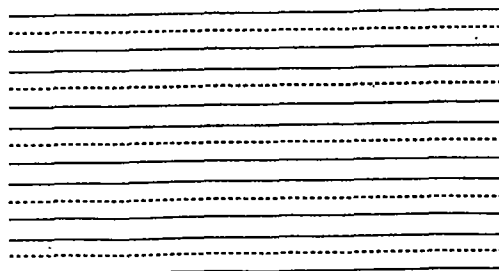


Fig.2.品性徳目ノートの内容（正直）

次に、トマホークリッジ小学校で取り上げられていた品性徳目の年間学習スケジュールとその内容について具体的に説明してゆく。その際、ポスターに書かれていた品性徳目の具体例は「 」を付けて紹介する。

① 責任感・・・8月、9月（日本では4月、5月に相当する）

自分が引き受けた仕事、承諾した仕事は喜んで義務を果たす気持ちを育てる。仕事は責任を持って、良心的にやる。他者に気持ちよく、援助を求められることができる。

「自分の約束を果たす」「間違いをしたら、素直に認める」

② 尊敬（思いやり）・・・10月（日本では6月に相当）

他者の意見や要求を却下したり、粗末に扱うのではなく、デリケートに答える。個人間の違いは、社会を豊かにするものであり、祝福されるものである。個人の自由を主張する一方で、グループや他のメンバーの立場にも敬意を払う。尊敬するのは、他者だけでなく、自分自身、地球環境も含まれる。

「誰にでも親切に接する努力をする」「他者がど

うしたら喜ぶか想像できる」「他者の個性、属性に注意深くなる」

③ 忍耐強さ・・・11月（日本では7月に相当）

目標に向かって、心をしっかり持って、勤勉に努力する。いったん始めた仕事は最後までやる。仕事は大変なので、他のメンバーは、喜んで他者をサポートする。

「やり始めた仕事は最後までやる」「一生懸命やる」「他者と協力する」

④ 奉仕・・・12月（日本では9月に相当）

人生の最大の満足感、他者への奉仕によって得られることを発見する。人の才能は、サービスを通してみんなで共有すると豊かになれることを認識する。人に頼まれるのを待つのではなく、報酬は期待しないで、他者の要求に積極的に答えることができる機会を探す。

⑤ 自己統制・・・1月（日本では10月に相当）

最も単純なレベルでは、よい生活習慣を身に付けること。また、誰もみな、成長段階による制限、個性という制限の中で生きていることを理解する。

「自分の手、足、物を自分で統制できる」「順番を守り、他者を待つことができる」

⑥ 正直さ・・・2月（日本では11月に相当）

他者の仕事にけちを付けずに、自分の責任を注意深く、誠実に果たす。悪いところがあれば進んで認める。どんな人も、人はすべて頼れる人であるという確信を持って、自分自身をオープンにして、みんなで共有する。

「誰にでも、完全、真実な情報を与える」「自分の誤りを認め、悪いところは良くなるように努力する」

⑦ 思いやり（共感）… 3月（日本では12月に相当）

人はみな、思慮深く、注意深い。過去から現代まで、人は傷つき、混乱し、腹を立て、悲しんできた事実がある。このような面を無視するのではなく、互いに手を差し伸べある。葛藤がある状態では、とにかく和解の方法を捜し求め、たとえ相手が悪い場合でさえ、互いに理解し合うように努める。

「援助が必要な人を助ける」「他者をからかわない」「違いがあってもよく、それは何の問題もないことを忘れない」

⑧ 勇気… 4月（日本では1月に相当）

反省する勇気を持つ。

「それが簡単なことでなくても、正しいことをやる勇気を十分に持っている」「他者に同じだと励ますことができる」「他者のよいところを探すことができる」

⑨ まとめ… 5月（日本では2月、3月に相当）
には、もう一度、全体の総復習をする。

この品性徳目のすばらしさは、その内容が文化や人種を超えてどんな人にも役立つものであることである。加えて、どの内容にも、「自己主張」に加えて、「他のメンバーの立場にも敬意を払う」「喜んで他者を援助する」というような、「他者への配慮の仕方」が記載されている点が特徴的である。これらの品性徳目は、地域のコミュニティだけでなく、家庭の中でも、毎日の生活で子どもたちに毎日少しずつ教え込む人格特性と同じものである。したがって、学校で品性徳目を教えることは、より親切で暖かみがあり、より責任感ある社会を作るという大きな目標のために、児童の両親と児童の家族と、一緒に助け合っていることになるのである。

「よい市民」を育てるという教育目標は、子ども自身の成長、発達の目標になると同時に、子どもを育てる親の教育方針を方向付けるのを助ける。また、よい市民を育てることは地域の人たちが良い地域社

会に住めることにもつながる。こうして、一人の子どもの教育は、子どもとその家族に限られたものではなく、地域の人にとっても「われわれ」のことになるのである。このように、この品性徳目は、学校と地域と家庭が連携する要になっていると言えよう。

ところで著者はトマホークリッジ小学校では品性徳目を月割りで力点を置いて学ぶシステムになっていること、Boyerの考えを取り入れて、品性徳目をカリキュラムと一貫性をもたせる工夫をしていることを、帰国前に校長先生に頂いた校内研修用の資料を見て知った。後になって学校行事をふり返ってみると、確かに品性徳目はBoyer(1995)が提案しているとおり学校行事と関連して組まれていた感がある。例えば、5年生の9月に行われた音楽発表会は、5年生が「責任感」に関連した歌をいくつか発表したものであった。奉仕の月である12月には、自分自身が働いて得たお金の一部を寄付する募金活動が行われていた⁴。勇気の月の4月には「テレビを見ない1週間」という行事があり、「今日はテレビを見るのを止めて（ ）をしました」というシート（親の証拠サインが必要）を貯めて景品をもらう行事もあった（Fig.3）。これは、正しいことをやる勇気を磨く行事だったのかもしれない。忍耐強さの月、11月には健康増進のために、帰宅後、多く歩く習慣を付けるためのLap it upという行事もあった。これは例えば、400メートルを1ラップと決め、2週間程度でなるべく多くのラップを歩くように努力するもので、前もって30ラップ以上は銅メダル、50ラップ以上は銀メダル、80ラップ以上は金メダル、と、評価基準が公表された上で褒美もらえる⁵「歩け歩け週間」である。4年生の5月に行われた音楽発表会は、品性徳目のまとめの月だったためだろう、proudというテーマのもとで「尊敬」や「共感」など、複数にまたがる品性徳目を網羅し、自尊心を高めようとする数々の歌⁶の発表会だった。

⁴ 募金はクラス単位で総額を競争するシステムになっており、一位のクラスには全員にアイスクリームがプレゼントされる。生徒はこの競争のために、一年間小遣いを貯めて準備しており、30ドル、40ドル寄付する生徒もいる。

⁵ よい行いを報酬を与えて強化するようなシステムは中学校にも見られる。中学校では、ゴミ袋を地域の人に販売し、学校の運営資金にする行事もあった。この行事では、ゴミ袋の販売数を個人別に競い、上位者は公表され、景品が与えられる。景品はゲームボーイ（一位）など、中学生が心底欲しいと思うものであった。これらの取り組みのためか、中学生の中には、個人でなく会社にゴミ袋を販売行つて、何百ものゴミ袋を売る生徒もいた。

⁶ 具体的な歌詞は青木（1999）に紹介している。

National Turn-Off TV Week

Name _____

Class and Grade _____

I gave up watching _____

and I chose to do _____

Parent's Signature _____

Fig.3.テレビなし週間のチケット

(注) 5枚分のチケットと次の解説が書いた紙をもらう。「テレビを見る代わりに心や体によい他のことをしたとき記入します。4月21日(水)から始め、一週間後の木曜日に図書館で返却します。記念品との交換に必要なものは保護者のサインがあるものです。一日1枚有効です」

IV. 品性徳目教育と道徳教育の違い

では、品性徳目教育は従来の道徳教育とどのように違うのかであろうか。この点について Wynne(1997)は、品性徳目教育と道徳教育には、次のような教育目標、教育方法の違いがあるとしている(Egge&Kauchak, 1997)。つまり、品性徳目教育では、児童・生徒に正直さ、市民意識など、よいと思われる考えを伝えることを重視し、それを学校や学校外で実際に使ったり、行動が取れるように練習する教育を行う。それに対して道徳教育では、価値観を伝えるのではなく、価値観がもっと自由であり、児童・生徒の道徳的な理由付けの発達に力点が置かれる。教育場面では、道徳的ジレンマ問題を使って討論を行い、道徳的な観点から問題を考えて解決し、自分とは違った視点からものを考える価値の相対的な違いを学ばせる。

この2種類の道徳教育では、教師の役割や学習者をどのように捉えるかも違ってくる。品性徳目教育では、児童・生徒は、潜在的に悪い面を持った、余り社会化されていない教育可能なものとする。このため、継続した道徳的なガイダンスが必要となる。その際、教師の役割は児童・生徒が適切な行動ができるようになるために、適切な価値を説明し、提唱し、指示し、手本を見せ、児童・生徒を強化することになる。

これに対して道徳教育では、児童・生徒は道徳感やその複雑さ、合理性という点で未発達であり、発達を促進する刺激が必要な存在だと考える。教師は、

児童・生徒が、より複雑な問題を解決できるように問題を提示し、議論を促進し、児童・生徒を援助する役割を取る(Table 1)。

これらの2種類の道徳教育への批判としては、次のことがあげられる。まず品性徳目教育への批判は、「教育」と言うよりは「価値をたたき込む」ことが強調されていること、児童・生徒の認知よりも行動を強化することである(Kohn,1997)。それに対し、道徳教育への批判は、正しいものも間違っただけのものもない、道徳の相対的な価値を教えるに過ぎないこと、ジレンマ問題が仮説的なものであり、実際の学校生活とは乖離していることがあげられる(Wynne,1997)。

人は他者と交流することなく生活することなどありえない。そして他者と交流するときには、正直さ、ケアリング、他者に敬意を払うことなどは不可欠なものである。おそらく、最も良い品性徳目教育とは、自らすすんでこれらの核となるような品性を身につけ、自ら進んで実行するように教育することであろう。そして実際に、トマホークリッジ小学校での品性徳目教育の運用形態は、どちらの良さを併せ持つように工夫されているように思えた。

V. 品性徳目の教育方法

次に、学校でどのような徳目の授業が行われているかを紹介する。品性徳目ノートを見ると、品性徳目は授業では毎月1つずつ取り上げ、ディスカッションしながら、自分自身の生活をふり返る形式で行われていると思われる。では、品性徳目について討論する日には、どのような討論が行われるのだろうか。これについて、校内研修用の資料には、次のような討論の仕方が記されていた。

品性徳目の授業での討論⁷

<クラスでの討論；さあ、はじめましょう>

1. あなたのクラスの仲間と一緒に、ガイドラインに沿ってブレインストーミングを行いましょう。例えば、ガイドラインとは次のようなものです：
 - ① 発表するのは一人ずつ。一度に一人しか話さない。
 - ② どんな考えも大切にされる。
 - ③ より良い解決を目指して一緒に考え、行動する。

⁷ この資料に含まれていた「クラス討論を促すヒント」「よりよいディスカッションのためのチェックリスト」の全訳を巻末資料1,2に示す。

Table 1 品性徳目教育と道徳教育の比較 (Eggen & Kauchak, 1999)

	品性徳目教育	道徳教育
目的	価値を伝えること。 価値ある行動が取れるようにする。	道徳的な問題に関する思考力を高める。 道徳的な問題について討論する。
教授方法	価値に関するものを読み、価値について分析する。 良い評価行動を実行する練習をし、それに対して報酬を与える。	モラルジレンマ問題が、問題解決力を高める。 討論で道徳的な視点を共有する機会、他者や他の視点を分析する機会を得る。
教師の役割	講義。模範を示す品性徳目の擁護者。	難問を出す。討論の促進者。
生徒をどう見るか	まだ社会化されていないコミュニティの市民なので、道徳的な指針と助言が必要。	未発達なので、複雑さを増す道徳感の中で、よく情報を使うことができない。

④ どんな決定でも、クラスみんなが最大の関心をもって決める。

⑤ 向上心を持っているものはみんな誰でも祝福される、などです。

2. 楽しい決定ができるように生徒に力を貸し、クラスの仲間が仲良くなるのを援助しましょう。例えば：クラスの係り、列の並び方、クラスのペットの世話の仕方、クラスや学校で徳目がどんなところに見られ、どのように生かせるか、などです。

<クラスでの討論とは>

- ・ 生徒が主体的に行うもの。議題は生徒に決定させよう。
- ・ 騒ぎを行うためのものではない。
- ・ 特に最初の段階では、教師も発言者として含まれる。
- ・ 飽きない程度に短いものであるべき。
- ・ グループが最も関心のあることに常に焦点を絞る。
- ・ 決まった方法はない。
- ・ 問題を厳密に、批判的に解決することを教えるもの。

<意志決定の際の重要な道具・・・一本指から五本指まで>

・「私はこの決定を妨害する」に対して・・・

一本指；私はこの決定が好きではない。しかし、私はこの決定を妨害しない。

二本指；私はまあ、この決定には従える。

三本指；これはかなり良いアイデアである。

四本指；私はこの決定が良いと思う。

五本指；私はこの決定に心から賛同する。

最後の「一本指から五本指まで」は、どのように用いられるのか定かではない。しかしクラスの決定について「賛成」か「反対」の二者択一ではなく、5段階で意思表示できるシステムは日本にはないのではないだろうか。五段階で意思表示できれば、決定の際もクラスの仲間の何人が賛同してくれているかだけでなく、賛同してくれた仲間がどの程度賛同しているのか、その程度を知ることができ、その後の議論の発展の指標になるとと思われる。

また、討論の仕方から、この討論会ではどんなアイデアでも受け入れられる様子が窺える。このことからアメリカの品性徳目は行動や態度、価値観の共通基準を「教え込む」側面を持つが、個人の発想やアイデアはあくまで自由であることがわかる。この点日本の場合、理念としては「個性の尊重」を唱いながら、自分の意見の表示方法として二者択一的な意思表示様式しか持っていない。これでは、クラスに敵か味方しか存在しなくなるため、どんな意見をも尊重する討論の雰囲気を作るのは難しいであろう。

品性徳目と生徒指導 さて品性徳目は、単に授業で取り上げられたり、学校行事の中核になっているだけでなく、子どもたちの行動の評価にも用いられ

る。Fig.4 に、著者の娘が学校の給食係をしたときの、給食担当の先生が下さった評価表を示す。この評価も、学校が定めた品性徳目に一致している。このような評価シートは、各先生が持っている、係、当番の仕事を行ったときに下さるものである。娘は給食係、図書係などの時、このシートをもらってきた。もちろん、学期末の通知票にも、これらの品性徳目が記されており、教科外の評価の対象になっている。

TOMAHAWK RIDGE TRAILBLAZER
VIRTUE CERTIFICATE
 Name Yoshiko Aoki
 Displayed
 Responsibility Self-Discipline
 Respect Honesty
 Perseverance Compassion
 Giving
 Noticed By NE 4-8-99

Fig.4.係りの仕事の評価

さらに品性徳目は、子どもたちの問題行動を更生する際にも用いられる。これに関し、品性徳目の校内研修用マニュアルには、子どもが問題行動を起こしたときに、教師が取る対処方法についての4つのステップと Fig.5, 6 に示すシートが記されていた。4つのステップとは次の通りである。

- 子どもが問題行動を起こしたら、次の方法を探る。
- (1) ステップ1 ; 言葉による説明・・・「どの徳目を忘れたの?」「どうすべきだった?」などと聞く。
 - (2) ステップ2 ; 書く・・・適切な形式を用いて反省できできるようにする。
 - (3) ステップ3 ; 保護者のサインをもらってくる・・・自分の反省を家に持って帰って、両親と内容について話し合い、保護者にサインをもらう。サインをもらうのも責任。
 - (4) ステップ4 ; この状況を理解してもらう保護者会を開く。

このステップとシートは、例えば次のように使われる。もし、宿題を3日続けて忘れたとする。その際、子どもに反省させるのに、単にしかるのではなく、教師はこの品性徳目をベースに反省させる。そ

して次のステップで子どもに Fig.5, 6 のシートを書かせる。このシートに従うと、宿題を3日続けて忘れた場合は、具体的には次のような記述になると想定できる。以下に Fig.5,6 の全訳を併記してシートの用い方を具体的に考えてみる(シートに固定的に記述されている部分には下線を引いて区別する)。

『宿題を忘れないためのプラン』

1. 私がしたことは、ゲームに夢中になって3日続けて宿題を忘れたこと。
2. 私が忘れていた品性徳目は、(宿題をする) 責任感、(宿題をする) 忍耐強さ、(ゲームを止める) 自己統制、(宿題をしたと親に嘘をついた) 正直さ、である。
3. なぜ、そのような問題がおこったかという、ゲームが楽しくて、止められなかったから(英語の質問内容から、他者に暴力を振るったような場合もこのシートが用いられることがわかる)。
4. そのことで私はどんなきもちになったかというと、ゲームは楽しかったけど、みんなに怒られ、反省して、自分自身が情けなかった。
5. なぜ、そのような問題がおこったかという、ゲームが楽しくて、止められなかったから(英語の質問内容から、他者に暴力を振るったような場合もこのシートが用いられることがわかる)。そして最後に、自分自身でこの反省をした証拠と次への決意を込めて、自分自身で自分の名前をサインする。

ステップ3は、このシートに保護者のサインをもらうステップである。校内研修用の教師用マニュアルによると、この保護者のサインをもらうことで、親に児童の状況を知らせるだけでなく、親子の会話の中に子どもの問題行動が話題としてあげられることを目的としている。子どもの問題行動について親子で対話してもらえば、子どももより反省する機会を得ることができ、子どもが親の考えを知る機会をも得ると考えている。また、このように親のサインを求める目的は、子どもが問題行動を反省し、問題行動を減らすことなので、このシートは必ず「翌日」サインして返却してもらうように申し合わせている。そして、もし子どもが忘れた場合は、再度シートを書かせて翌日返却してもらう。とにかく、翌日返却してもらうまで繰り返すとの申し合わせが記されていた。

最後のステップとして、保護者会を開くとの記載があった。残念ながら、著者の子どもたちは、在校





A plan for _____

1. **What did I do?** _____

2. **What VIRTUE did I forget?**

- Respect
- Responsibility
- Perseverance
- Giving
- Self-Discipline
- Honesty
- Compassion

3. **Did I make a problem for myself or someone else?** _____ **Who?** _____

4. **I feel**    

happy sad mad afraid

5. **I need to stop** _____

and I will try to _____

Signed _____ **Date** _____

(Student) _____

(Parent) _____

(Teacher) _____

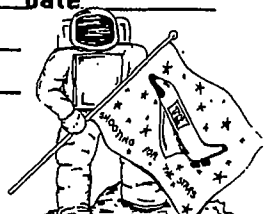


Fig.5.生徒指導用シート（低学年用）

中、問題行動を起こさなかったのに、この保護者会がどのようなものなのか、どの程度の規模なのか、どの程度の問題行動の際に開かれるのかは不明である。しかしいずれにしろ、日本でこのようなシステムを導入する場合、保護者に対するある程度の説明は必要なのではないかと感じる。

VI. 「思いやり」概念の日米差

では、日本でアメリカのような品性徳目教育をそのまま取り入れてうまくいくであろうか。この点について、一般的に日本で最も重視される徳目である「思いやり」を中心に考察してみる。トマホークリッジ小学校の品性徳目の中には、日本語で「思いやり」と訳したほうが良さそうな語が2つ含まれている。RespectとCompassionである。この2語について、どのような訳語が適切なのかを検討するため、品性徳目についての教師向け解説書を参考にした(Cicciarelli, et.al, 1997a,; Schiller, & Bryant, 1998)。その結果、respectは日本語の他者(特に目上の他者)に対する「尊敬」とは少し意味が異なり、①「決まりを守って遊ぶ」「たとえ外見や振る舞い、信仰が異なっても、誰に対しても敬意を持って接することができる」など、コミュニティのルールや配慮だ

The 7 Core Virtues

Respect
Responsibility
Perseverance
Giving
Self-Discipline
Honesty
Compassion

My Plan

Date: _____

Step 1 2 3 4

Name: _____ Teacher: _____

1. **What did I do?** _____

2. **What virtue did I forget?** _____

3. **How did I make a problem for someone else or myself?**

4. **How did that make me feel?** _____

5. **How can I improve? What can I do next time?** _____

Student Signature: _____

Teacher Signature: _____

Parent Signature: _____

Principal Signature: _____

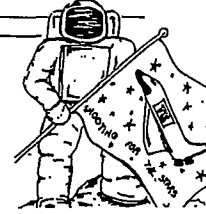


Fig.6.生徒指導用シート（高学年用）

けでなく、すべての他者を大切にすること、②「自分の考えを大切にすること」「世界中であなたの代わりはいない」など、自分自身を大切にすること、③「花をむやみに摘まない」など、自然界の動物を大切にすること、④「缶をリサイクルすること」など、自然環境を大切にすることなどが含まれることが窺える。つまり、意識の対象が他者でしかない日本語の「尊敬」「敬意」より、意識の対象がかなり広い。

Compassion(共感)は、Table 2に示すように、sympathy and concern(理解と気遣い)、caring for others(他者の世話)、being kind and thoughtful(相手の気持ちを考えて親切にする)、helping those in need(困っている人を助ける)など、内容的には4種類あり、発揮する場所としては家庭、学校、コミュニティの3種類が想定されていた。日本の「思いやり」概念の場合、思いやりは主として「他者」に対して持つものであり、自分自身への思いやりは考えにくい。人が対象でなく、家庭への思いやり、学校での思いやりはさらに考えにくい。ましてやコミュニティへの思いやりとは一体どのような行動であるのか、想像することすら難しい。このことから、アメリカの思いやり概念は、日本語の思いやり概念より、語の対象が広く、内容が多様であることが窺える。

このことを、教育現場に置き換えて考えたとき、日本での「思いやり」教育の難しさを痛感する。日本語の「思いやり」は、英語に比較して、内容的には多くのことを含みすぎており、発揮する対象としては小さすぎるのである。このことからもし仮に、日本の小学校にトマホークリッジ小学校のように、一ヶ月に一つの徳目を取り上げて年間行事を組むシステムを導入した場合、「思いやり」は一ヶ月で取り

上げるには大きすぎる徳目だと考えられる。このように考えると、品性徳目教育を日本に取り入れる場合、日本語の徳目の持つ意味内容や対象をよく考えて取り上げ、本質を深める努力が必要であろう。

最後に、品性徳目教育は学校行事や生徒指導だけでなく、教科教育の内容とも関連している。この点については次回に報告したい。

Table 2 Compassion (共感、おもいやり) の具体例

	家庭	学校	コミュニティ
相手を理解し、気遣ってあげること (showing sympathy and concern)	・弟を元気づけるために面白いジョークを言ったよ。	・悩んでいる友達の話聞いてやったよ。	・ホームレスの人に配る缶詰を集めたよ。
他者の世話をすること (caring for others)	・寝る前に妹にお気に入りの本を読んでやったよ。	・けがをしている友達のお手伝いをしたよ。	・老人ホームのお年寄りに本を読んであげたよ。
相手の気持ちを考えて親切にすること (being kind and thoughtful)	・入院しているおばあちゃんにお花を持っていったよ。	・転校生の友達に昼休み「一緒に遊ぼう」と誘ったよ。	・荷物を運んでいる人にドアを開けてあげたよ。
困っている人を見たら助けてあげること (helping those in need)	・お母さんが病気で寝込んでいるとき、朝ご飯を作ったよ。	・学校の仕事で困っている友達に「手伝うよ」と言ったよ。	・チャリティ募金に参加したよ。

(注) この表は、品性徳目の教育方法や具体例から、著者が独自に作成したものである

引用文献

青木多寿子 1999 「アメリカの小学校—The basic school 実践校のケースレポート」 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター研究年報, 第2号, 11~20頁.

青木多寿子 2001 「新しい人権教育創造のための基礎研究—校則ルールの違いに見る人権教育の日米比較—」 山陽放送財団レポート研究成果特集 第45号 Pp.4-9.

Botvin, G. J. 1997 *Life skills training; promoting health and personal development*. Princeton Health Press, New Jersey.

ボイヤー 1997 「パーシックスクール; アメリカ最新小学校改革提案」 中島章夫監訳玉川大学出版部 (Boyer, E. 1995 *"The basic school; a community*

for learning") .

Cicciarelli, et al. 1997 *Bulding character & community in the classroom, K-3*. Cicciarelli (ed.) Creative Teaching Press, CA, USA.

Cicciarelli, et al. 1997 *Bulding character & community in the classroom*. Cicciarelli (ed.) Creative Teaching Press, CA.

D.A.R.E. 1997 *To resist drugs and violence, Student Workbook Grades 5-6*. D.A.R.E. America and Los Angeles Unified School Discript.

Eggen P., & Kauchak, D. 1999 *Educational Psychology: Windows on classrooms*. Paul Eggen & Don Kauchak (4th eds.). Prentice-Hall, Inc.

Kohn, A. 1997 *How not to teach values*. *Phi Delta Kappan*, 78(6), 429-439.

Lickona, T. 1993 *The return of character education*,

Educational Leadership, November, 6-11.

Schiller, P. & Bryant, T. 1998 *The Values book; teaching 16 basic values to young children*. Gryphon House, Inc. MD, USA.

佐藤 園 2001 「アメリカ合衆国における教育改革と家庭科教育（第2報）—カンザス州のミドル・スクールに見る教育改革—」 岡山大学教育研究集録 第117号 Pp.51-64.

佐藤 園 2001 「アメリカ合衆国における教育改革と家庭科教育（第3報）—カンザス州のミドル・スクールにおける家庭科の実践—」 岡山大学教育学部研究集録 第118号 Pp.69-83.

Tomahawk Ridge Elementary School 1998 Basic Schools All School Management plan.

Wynne, E. 1997 *Moral education and character education: A comparison/contrast*. Paper present at the Annual meeting of the American Educational Research Association, Chicago.

＜資料1：クラスの話し合いのためのチェックリスト＞

教師がクラスでの話し合いを計画し、実行し、評価する際、考えなくてはならないポイントを次に示します。実際の話し合いでは、これらのチェックリストのいくつかに焦点を当てて選んでください。

話し合いを始める環境設定

- ・生徒はお互いに差別、区別されず、各自が発表する適切な機会を持っているか？
- ・生徒は話し合いの一般的なルール⁸を理解しているか？
- ・生徒はどんな考えでもすべて敬意を払うことが重要であること、他者の意見に賛成できないときで

⁸ 話し合いのルールとは、次のようなものと推察できる。この小学校には、麻薬、暴力に抵抗する教育として、スクールボリスが授業を行う際に用いる5,6年生用のワークブックがある。その最初に、話し合いのため具体的ルールが記されていた(D.A.R.E., 1996)。参考までに記すと、それは次のようなものである。「常にひとりがしゃべれるように、手を挙げてから発表しましょう」「積極的に振る舞い、他者に敬意を払いましょう。けちを付けることは他者の感情を傷つけることとなります」「他者の発言だけでなく、態度も監視して、気持ちをくみ取りましょう」「話をするとき、個人名を出すのではなく「私の知り合いが」ということばを用いましょう」「自分が答えて嫌にならない質問だけを考えましょう」

も、相手の意見に敬意を払いながら賛成できない気持ちを伝える方法を知っているか⁹？

- ・生徒は、互いに好意的に相互の意見を聞き合うことができるか？
- ・生徒が「切り捨てられた」と感じたり、「急かされている」と感じたりすることがないように、教師は話し合いに十分時間をかけているか？余り興味がないとき、早く終わるようにし向けていないか？
- ・生徒はクラスのこととはどんなことでも生徒が決めるものであり、教師が決めるつもりがないことを理解しているか？
- ・生徒は話し合いには多くのスタイルがあること、例えば、予定されていたものや臨時のもの、輪になって座って話し合うことや机に座って話し合うこと、短いものや数日にわたるものなど、を理解しているだろうか？
- ・生徒は話し合いで用いている言葉を理解しているだろうか？私は、生徒が言葉を理解していないとき、教師はどのように援助するのが適切だろうか？

計画や意志決定の話し合い：会議事項を設定する

- ・この議題はオープンエンドであるか？（教師は、あらかじめ決めた結論を持っていないか？）
- ・この議題は重要であり、生徒が興味を持つものであるか？
- ・教師は喜んで生徒の考えを取り上げ、生徒に実行させることができるか？

チェックのための話し合い

- ・生徒は、これは自分たちが学ぶこと、自分たちが学びたいことを振り返る時間であると理解しているか？
- ・生徒は、これは反省の機会であり、場合によっては、以前の決定や計画を練り直すこともあることを理解しているか？

⁹ この学校区では、小学校にライフスキルトレーニング(Botvin, 1998)の授業を取り入れている。その授業の中に相手の気持ちに敬意を払いながらも自己主張する練習がある。小学校3年生用テキストによると「No」の言い方は8種類ある。「いや」と本気で言う」「いや」と言い続ける」「断る理由を言う(父が知ったら怒るから)」「断る事情を説明する(他の約束があるから)」「その場から離れる(ごめんください。行かなくてはならない所があるんだ)」「他のことを提案する(映画じゃなくてゲームにしない?)」「聞こえなかったふりをする」「ジョークを言う(お金を貸して欲しいの？私のことどう思ってる？銀行?)」などである。

- ・生徒はうまくいっている場合、成功している場合でも、点検、反省の話し合いは時間をかける価値があることを理解しているか？
- ・生徒は、自分たちは点検、反省の話し合いで提案したり、質問したりできることを知っているか？

問題解決、意識性を順序づける話し合い；会議事項を設定する

- ・この議題は「安全」か？生徒はみんな、話し合える程度に十分な経験を持っているか？私も参加できるものか？
- ・この議題は小グループによって改善できる内容か？（この議題は、直接関係あるものか？）
- ・あるグループが関心を持っている議題について、それをクラス全体のものとして取り上げることに同意しているか？そしてその議題は全員が参加できるものであるか？
- ・話し合いの時期は適しているか？
- ・生徒は、直接的な問題ではなく、潜在的な問題を解決する時間であることを理解しているか？
- ・これは一回の話し合いで解決できる問題であるか？もしそうでないなら、私は続きの時間を喜んで設けることができるか？

出合いのための話し合い

- ・生徒は、聞いてもらいたい自分の意見を公表することを安全だと感じているか？
- ・生徒は、自分の考えは先生に聞いてもらうものではなく、互いに聞き合うものであることを理解しているか？
- ・生徒は、意見を言うことで困った立場に立たされることはないことを把握しているか？
- ・生徒は「ブレインストーミング」のルール（例えば、どんなアイデアでもよく、アイデアにコメントはしない、など）を知っているか？
- ・生徒は話し合う相手と互いに気持ちよく話が出る関係であるか？または、小さなグループの場合、自分たちの考えをつなぎ合わせて考えることができるか？クラス全体で話し合うにはアイデアが多すぎるのはどんな時か？

合意（総意）を形成する

- ・生徒は合意とは何かを理解しているか？
- ・生徒は、なぜ単に投票するだけでなく、合意に到達するように努力するか理解しているか？

- ・生徒は、考えを保留するより合意に到達した方がよいのはどんな時かを理解しているか？生徒はアイデアの結合の仕方、歩み寄り方を知っているか？
- ・私は生徒が合意に達するのに十分な時間（例えば多くの要素を含む話し合いなど）を取っているか？
- ・成果の上がない話し合いでも気持ちよく終われるか？そして、後日その議題に戻ることができるか？
- ・生徒が合意に達したとき、生徒が適切に実行できるようにを援助してやれるか？

前回の話し合いを評価する

- ・生徒は、いつも前回の話し合いをふり返ることの意味を理解し、必要があれば前回の決定を修正できるか？
- ・その決定が最後に確認されたのはいつだったか？

反省を奨励する

- ・話し合いをふり返るための時間を十分に残したか？
- ・生徒たちに、話し合いの経過や結果を反省するように、そして修正を提案するように促したか？

<資料2：話し合いを促進するヒント>

教師は、クラス会議が楽しく、刺激的になるよう配慮し、子どもたちに発言の機会を多く与える。同時にクラス会議が活発になり、そのプロセスや課題が快適になるように働きかける。クラス会議を一層促進するために、次のようなヒントをあげる。

クラス会議を促進するヒント：

- ・話し合いのための大前提のルールを理解してもらう。
「どうすればよい決定ができるだろう？」「クラス会議をどのように運営したらいいだろう？」
*もし生徒がすでに前提を理解しているなら、再度内容を確認し、その前提がクラス会議とどう関わっているかを話し合しましょう。
- ・クラス会議の最初には、答えが決まっているような問いかけでなく、オープンエンドクエッションを投げかける。
「今日は、何を学んだ？」「**についてどうす

ることができる?」「何が役に立って、何が役に立たない?」「**について何をすることができる?」

- ・決定するとき、問題が明らかになったときは、「私たちのクラス」というように、「私たち (we)」という言葉を用いる。

「私たちのクラスの**について、ほかに意見はありませんか?」「これについて、私たちは何ができる?」

- ・いつも「正直」な質問をするように心がける。質問は、生徒たちの考えていること、感じていることについてあなたの潜在的な興味を反映していることに注意する。

「あなたが考えていることをもう少し知りたいんだけど」「あなたはどう感じるの?」「なぜ、そのように考えたの?」「そのように考えたのはどうして?」

- ・子どもたちの手本となるように、評価をするのではなく、敬意をもって子どもたちの意見を支援する。

「意見、ありがとう」「なるほど!」

- ・一部の人の意見を聞くのではなく、みんなの意見を聞くように励ます。

「何人かの人の意見を聞きました。でも、まだ意見を聞いていない人がいます。待ってみましょう。**が何かを言いたそうだから」

- ・難しい意見、少数派の意見や感情、コミュニケーションスタイルが違う生徒（外国人等）は、特に意識的に支援する。

「急がなくてもいいよ」「続けて。みんな聞いているから」

- ・詳しく聞いてみる。

「もう少し、教えてくれる?」「わかっていないかもしれないから聞きたいんだけど」「**ということかしら?（生徒の立場を尊重しながら聞く）」

- ・議論を発展させるために聞いてみる。

「このアイデア、みなさんはどう思いますか?」「誰か、似たような考えを持っていませんか?」「違う意見、他の意見はありませんか?」

- ・生徒たちは、近くの席の生徒と数分、話す時間を持たせる。

「近く人と**について話してごらん」「パートナーと1分、話し合ごらん」

- ・クラス会議が前に進むように情報を提供するとともに、誤った情報は違っていることを明らかにする。

「私は**ということを知っているんだけど」「私が持っている情報を付け加えさせて」

- ・不公平にならない配慮をする。決して一方の味方をしない。

「誰にもわかりません。私は決められません」「どちらの解決方法にも納得できません」

- ・もし必要なら、そのとき誰が話したかがわかるようにしましょう。

「ここにアイデアのリストがあります。**から聞いてみましょう。それから**にも」「多分、この話は**と**とに関係があると思います。」

クラス会議のたびに自分の進め方を反省しましょう

- ・よかったのはどんな点か
- ・次回、気をつけた方がよいのはどんな点か。

Title : Character Education and Its Management in an Elementary School in Kansas City, U.S.A.

Tazuko AOKI (Faculty of Education, Okayama University)

Abstract : This paper is to introduce the actual management of Character Education in one public elementary school in Kansas City, U.S.A., according to the teachers' management plans of this school, printed matters for students and some textbooks about character education for teachers. Additionally this paper shows the change of moral education in the U.S.A, the comparison of traditional moral education with character education and teachers' checklists to facilitate class discussion. Character education manages in school district units beyond class, grade and school. As a result, all elementary schools, middle schools and high schools of this district have the same target characters. They study eight-target characters for a school year. This discussion aims to develop not only the moral judgment ability but also the practical one. These characters were used to estimate children's extracurricular and volunteer activities and to contact their parents about students' problem behavior. They might believe that communities and families work everyday to instill the same kinds of character in children. Therefore character education functions schools, parents and communities work together to further their goals as they work to help build a kinder and more responsible.

Keywords : Character Education, Moral Education, Class Discussion, Management of School, Behavior Program
